

氏名	宮崎 健史
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	乙第265号
学位授与年月日	平成20年9月3日
審査委員	主査 教授 山口 修平 副査 教授 安井 幸彦 副査 教授 坂野 勉

論文審査の結果の要旨

脳動脈瘤破裂によるクモ膜下出血(aSAH)の予後は依然として不良である。申請者はaSAH患者の転帰の悪化要因を、受診遅延の観点から明らかにするために臨床疫学的検討を行った。17年間に益田赤十字病院を受診したaSAH患者連続404例を対象とし、発症時と受診時の重症度を評価し、受診に到る経緯を解析した。まず、2時間以内に受診したND(No Delay)群と受診遅延群に分け、後者を主原因により患者側(PD: Patient Delay)、医療者側(DD: Doctor Delay)、脳卒中非対応の病院への転送(TD: Transportation Delay)の3群に分類した。次いで直接受診したDA(Direct Admission)群と他医療施設を経由したnon-DA(Non-direct Admission)群に分けた。さらに調査期間を3期に分け遅延原因の変遷を検討した。その結果、NDが全体の41%を占め、DAは43.6%で、受診遅れは平均1.7日であった。そしてPDとDDという遅延理由およびnon-DAが、症状の悪化に有意に関与していた。また年代と共にDDは減少したがPDは高い状態が続いていた。以上の結果から、早期診断と早期受診の重要性を強調するとともに、その阻害要因を特定し改善策についても提案している。本研究は極めて多くの症例を長期にわたり検討したもので、aSAHの予後改善に資する点で重要な研究であり、学位授与に十分値すると判断される。